

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会
〒998-0037
酒田市日吉町
1-1-7
☎0234-22-1224
牧師 塚本恭子

特別伝道礼拝

「美しい門」での出来事

使徒言行録三章1〜8節

宮城学院常任理事

牧師 大沼 隆

「わたしには金や銀はないが・・・」施しを求めていた男に向かってペテロはいきなりこう言った。なぐんだ！そうか！金を持っていないんだ。いつもだつて素通りの人は沢山いる。男はいくばくかの金銭を参詣者から施されるために、毎日毎日この神殿の「美しい門」と呼ばれている脇に「運ばれ・・・置かれて」いた。生まれながら足の不自由という障碍をもった彼の人生はどんなに不条理だったことだろう。つらいとか恥ずかしいとか悲しいといった感情さえとつくに失って、今はただ物体のように来る日も来る日もここに運ばれ置かれていたのだ。

この人物は我々が「先天性肢体障害者」と呼ぶ方々のこと同一ではない。偏見と差

別のゆえに人としての尊厳もなく喜怒哀楽の感情も失い自らの意志や行動で生きることとを阻まれたまるきりのように扱われている人間の姿なのだ。こうした不自由を強いられた人々、病む人々が生前のイエスのところにも来ていることを福音書は伝えている。この男はそういう意味では現代の私たちの分身と考えられる。英国の作家サマセット・モームは『人間の絆』で、主人公フリップ少年の「生まれながらの不自由な足」で不条理をめぐる自らの人生を、そして無意味で非常な束縛から立ち上がったいく姿を描いた。

彼は「ペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て施しを乞うた。」使徒行伝筆者はこの男が「見た」その目は周囲の人々や景色を無感動にただ眺めるように「見た」という単語で表現した。それと区別した単語でこう書く。「ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て・・・」。じっと見たのだ。凝視したのである。食い入るようにだ。

金や銀はない。教会も幼稚園も金のないところである。牧師も信徒も金銀で人々に何か役立とうとしているのではない。昔か

ら今日に至るまで。だが・・・「持っているものを上げよう」とペトロのように言える。「持っているもの」という言語には「賜物」「在り難く頂いたもの」といった意味合いに通じるニュウアンスがある。お金はないけど、もっと凄いものを今あなたに上げよう。

「ナザレの人、イエス・キリストの名によつて立ちあがり、歩きなさい。」何だと？イエス・キリストの名だと？だが物語はこの男の驚きも疑問も伝えない。その言葉は力強く断定的であり宣言そのものである。「イエス・キリストの名によつて！」「名」は符号ではない。その名は存在そのもの。「名」の威力は昔から人々は知っていた。例えば「王の名において」と言えばそれは王そのものを意味したように。

イエス・キリスト。その名はその方のなさったこと、行つたこと、その言葉、人格のすべてなのだ。その姿はいまここで目で見ることが出来ないが、目に見えない神の聖なる霊として力強く働いている。地上の生では徹底的に天の父の愛を実践なさり、神のご支配(天国)を易しい言葉で語り、偽善に満ちた宗教権力者と激しく戦われた方。最後は十字架で息絶えて黄泉に下り三日目に甦られた復活の主。今、その方が聖霊の働きとして「足の不自由な男」を立ち上げさせ、歩き始め(働き、生活するように)させた。

金も銀もないキリスト者、今日の教会。しかし、「わたしたちにあるものをあなたがたに上げよう。主イエス・キリストの名によつて立ちあがり、歩き始めなさい。」現代の私たちもあのペトロのように、パウロのように「足の不自由な人」すなわち人間としての人格や主体性を失つて自らの足でしつかりと立ち上がれない現代社会の隣人たちに自由解放と癒しの宣言を発していきたいと願っている。

(8月11日主日礼拝説教要約)

マタイによる福音書五章9節

釘の十字架

平和聖日

牧師 塚本恭子

国際基督教大学西洋哲学名誉教授の田中敦氏は、聖書は私たちに「呼びかけている言葉」であると言います。「言葉の存在と存在の言葉」という文章の中で、「釘の十字架が語ることをお話しています。「釘の十字架」というのは、普通クロス十字架は、日本の教会では木を素材が多いのですが、ヨーロッパには豪華な金銀、宝石などで飾ったものがあります。イギリスの聖マイケル教会は驚くことに3本

の釘で造られた、「釘の十字架」が祭壇に飾ってあるというのです。それは、主イエスの手と足に釘打たれた「苦しみのシンボル」を表わしたものです。同時に「平和のシンボル」でもあるという。なぜなら、その十字架には、聖マイケル教会の由来、歴史があるのです。その3本の釘の十字架は、その教会の瓦礫の中から、柱を支えていた3本の釘で組み合わされたもので造られていたのです。

田中敦氏によると、1940年11月14日から15日の夜間、第二次世界大戦の始まり。イギリスの中部のコヴェントリの町をドイツ軍は激しく攻撃したのです。そのために、その町の人々が大量なくなり、街の多くの建物は焼けて失われたのです。その建物の中に聖マイケル大聖堂がありました。大聖堂はドイツ軍の攻撃の対象になり、爆撃によって崩壊されたのです。その教会堂の瓦礫の山にたたずんでハワード司祭が祈った、その祈りを大聖堂の崩れた祭壇の壁に、「赦しを求めろ」という祈りを刻み付けたのです。その時、その大聖堂を支えていた3本の釘を集めて、それを組み合わせせて十字架を造り、祭壇に立てたのです。今もその十字架と祭壇の壁に刻みつけられたハワード司祭の祈りが残っています。

その祈りは、戦禍にあったものが、神への祈りをもって、後世の人たちに平和を告げたもので、敵に対する憎しみと苦しみを越えた「平和を求めろ」祈りでありました。すなわち、戦禍にあったものが神への「謝罪と和解」を求めろ七つの祈りがそこに刻まれてあったのです。

★ハワード司祭の祈り

☆

国民と国民を、人種と人種を、階級と階級を分断する憎しみを、父よ、お許しください。

二つのものが対立するものを一つにする「憎くむ罪の赦しの祈り」でした。

☆

人々と諸民族が自分のものでないものを占有しようとする飽くなき欲望を、父よ、お赦しください。これは、人間の物欲、限りなく所有したいという欲望から生まれる「むさぼる罪の赦しの祈り」でした。

☆

労力を尽くして大地を荒廃させてやまない貧しい欲望を、父よ、お赦しください。これは人間の傲慢な態度で、人間だけでなく、動植物も含めて、あらゆる生き物が生息する神の被造物を爆撃するという、「自然破壊の罪の赦しの祈り」であります。

☆

他の人々が幸福で恵まれた暮らしをしている

ことへの我々のねたみを、父よ、お赦してください。これは人間の嫉妬が生み出す憎悪、「ねたみの罪の赦しの祈り」です

☆
獄に繋がれている人々、住むべき場所をもたない人々、避難を余儀なくされている人々の苦しみに対する我々の冷淡さを、父よ、お赦してください。この祈りは、今、アフリカの旱魃による飢餓、津波による災害、異常気候による豪雨や土砂崩れなど深刻な状況が起きていますが、自分のことが大事で私たちが隣人に目を向けることを忘れる「愛の欠如」の祈りです。

☆
男の女の、そして子供たちの肉体をけがす貪りを、父よ、お赦してください。この祈りは、強い者、力ある者、富むものが弱いものを搾取する「弱いものへの暴力、貪欲の罪の赦しの祈り」です。

☆
神に信頼するのではなく、自分自身を信頼するように仕向ける驕りを、父よ、お赦してください。この祈りは、人間を絶対者とする、神を認めない人間の「傲慢の罪への赦しの祈り」です。

☆
私は、この七つの祈りを神に祈る時いつも思うのですが、戦争と言う非人間的な行為は、私たちの心のうちにすむ悪の力の勝利であること、人間の罪の力であることを

思い知らされます。

人間の欲望を露に現して、弱いものを暴力で奪うという卑劣さは人間の罪が表れています。戦争という現実状況に会って敵対する相互の憎しみ、自分のものではないものを欲しがる欲望、この美しい大地を破壊する人間の貪欲、他の人への嫉み、そして思想や宗教が違うことで殺し合う、人間が人間を裁く傲慢さ、人間の尊厳を疎外する貧弱、神を神と認めない驕り。これらの罪に対して「主よ、お赦してください。」と私たちも祈らなければならぬ。私たちは、現在の世界の中で繰り返されている罪、不義、暴力、飢餓、破壊、悪、傲慢、卑怯、むさぼり、妬み、争いなどの悪の力を見せ付けられています。しかし、それらは、私たちの心の中に常に潜んでいる罪で、私たちがまたこの悪の力に支配されながら、主イエスの手や足に釘を打っているのです。私たちに釘打たれる主イエスの手足は、その釘で常に血がながされています。

★平和の君、主イエス。

主イエスは平和の君でした。主イエスが生れた時を私たちは考えて見ましよう。真つ暗闇の星の降るような静かな寒い夜に、貧しい羊飼いたちが野宿して羊の番をしていたその時に生まれたのです。

闇の中に光が照って天使たちが現れたので、闇と光とは罪の支配と神の支配のこと

でした。大勢の天使たちは「天に御栄え、地に平和」と歌いながら神の御子が、平和の君として生れたことを告げたのです。その目的を果すために主イエスはこの地上で十字架に架かり私たちを救われたのです。主イエスは私たちの和解のために来られた「平和の君」でした。

★マタイによる福音書5章

ここには、「山上の説教」と言われている主イエスの説教集がまとめられています。その9節では、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」とあります。「平和を実現する」とは「平和をつくり出す」という言葉ですが、「平和を樂しむ人たち」とか「平和に生きる人たち」ではない。「平和をつくる人」のことをいいます。私たちは神に選ばれた「神の子ら」です。平和をつくり出すために選ばれているのです。平和は意識して一つ一つ創り出すことが大切なのです。釘の十字架に表わされているキリストのみ目を私たちは果たしていかなければならない。平和は忘れてはいけません。本当の幸いはキリストに在る、「シヤローム」「平和」です。

(平和聖日説教要約)

牧師館だより

皆様お元気ですか。「葡萄の香」第7号をお送りします。酒田は毎日のように豪雨と猛暑で息苦しいです。今年は異常気候で雨のない日がないように降り注ぐ雨。その後は35度の夏日。大地は潤っていますが、乾ききった魂が思ったほど潤うことが出来ないでいます。

特別伝道集會に恩師大沼隆先生から説教「立ちて歩け」を聞いて、金銀の他にある大切なものを求めて生きることを教えられて聖靈に満たされました。「葡萄の香」に記載しましたので、大沼先生の説教要約をご覧下さい。わが双葉園の聖歌隊は礼拝に「み言葉をください」の賛美を奉仕し、その後楽しい愛餐會に参加しました。

大沼先生は奥様の影響でしょうか、最近俳句に興味を持たれて、酒田の本間家の豪商山居倉庫を散策したときも手の指がいつも動いていました。ここに紹介をします。

気がつけばわが八十の夏来たる

大暑でも 長袖被ひ 遊歩道

☆

23日にはギデオン教会の愛餐會に誘われて山形国際ホテルに出かけます。主にあ

る兄弟姉妹と語り合うことで主の同業者から勇気もらいたいです。25日は酒田教會にギデオンの仲間の若王子姉、砂川兄、井上姉が礼拝に出席の予定です。聖書普及の伝道、大変ご苦労と思います。

☆

私はこの夏休み、と言つても酒田双葉託児園と幼稚園は、預かり保育をしていますので園長には休みがありませんが、うれしことに宮城学院での教え子が訪ねてきました。横浜から小池姉家族、仙台から中辻姉家族が旅行中に酒田教會に立ち寄ってくれたことでした。良き母になつても中高生の時の面影が残っていました。

☆

さて牧師館の雨樋が松の木の葉が詰まつて、アカシヤの木の芽が出るほど教會の周りにはニセアカシヤの太木があつて春には沢山花をつけて見事です、すっかり錆びついて大きな穴が複数あいて、その穴から雨は滝のように流れ落ちて、牧師館の土台下へと流れて部屋がかび臭く悩まされてきました。足場を組んで新しいものと交換して貰い、やっと豪雨の屋根の雨は下水へと流れるようになりました。感謝です。

☆

酒田教會の礼拝堂は扇風機のみでクーラーがない。主日礼拝も幼稚園の火曜礼拝も汗だくなく、35度以上になります。今年は9月も暑いと聞いて、クーラーを2台取

り付ける相談をしています。美しい礼拝堂の美観を損ねるのですが。しかし、かつては我慢できたことも、子どもやお年寄りにキツクなっています。設備の献金をお願いします。

☆

今私の一番の悩みは、付属する学校法人で認定こども園の託児園と幼稚園の経営です。入園園児が幼稚園は15名、託児園は19名と少ないので経営面で困難な状態です。教育と養護の理想はキリスト教教育の理念に基づいて行うのが当然ですが、それも将来の神の計画に参与することを望みながら子どもたちの現実を見ているのですが、なかなか厳しいものがあります。経営には疎い私です。奇跡が起きて酒田教會に携わるものに神の恩寵がありますように祈っています。幼稚園は18日で夏休みも終わって、運動会の準備に追われています。園長は運動會に置いて主役で登場します。園長からもう賞状、賞品を目指して子どもたちは頑張つて走ります。

☆

夏期献金ありがとうございます。目標額の17万円が献金されました。牧師の特別謝儀10万円と雨樋の一部経費7万円を支払いました。

編集後記

酒田の暑さの中から皆さんの健康を祈ります。頑張つて主の働き人として生きる。(T)